



創立の背景と歴史

押川は松山藩の士族の家に生まれ、維新後上京し、横浜居留地にて合衆国オランダ改革派教会外国伝道局派遣のJ・H・バラより1872年(明治5)受洗。翌年から、S・R・ブラウンが始めたブラウン塾の塾生となり聖書を学びます。押川はエジンバラ医療伝道会派遣の宣教師パームの事業を助け、新潟で伝道した後、仙台教会を創設、石巻、古川、岩沼の教会と共に一致(のちの日本基督)教会に加盟して東北伝道を展開しました。

ジャパン・ミッションを創設した宣教師グリングに次いで、合衆国ドイツ改革派教会2人目の宣教師J・P・モールが来日し、伝道活動は埼玉県にも広がりました。

もともとこの教派の外国伝道局は、福音の説教(直接伝道)と学校教育及び出版図書頒布により、異教の地にキリストの福音を広めることを目的に定めており、学校教育も海外伝道の一つの柱として出発していました。

日本基督一致教会が三教派(アメリカ改革派教会、アメリカ北長老教会、スコットランド合同長老教会)協力ミッションを進めたことから、合衆国ドイツ改革派教会ジャパン・ミッションも正式にこれに加盟、学校は神学校と女学校とすることが決まりました。1886年(明治19)1月には3人目の宣教師ホーイ(1858~1927年)が仙台に着任し、エリザベス(リズィ)・R・プールボー(1854~1927年)とメアリー・B・オールド(のちにホーイ夫人)の二人も日本における女子教育に献身することを決意します。

ホーイは仙台に来て最初の年の暮れには、日本語で説教を始めました。必要と考えたもののためならば、前進をためらうことのない強い意志力を持ち妥協を知らないホーイは、外国伝道局からの援助を得ず、独力で仙台神学校を創設するなど、その大胆な行動はときに外国伝道局との間に行き違いを生じたこともあったほどです。

初代校長に就任したエリザベス・R・プールボーは英語、聖書の指導に留まらず、洋食作法の先生、婦人洋服の相談相手、編み物、語学といった西洋文明の紹介者であり、また、病気になった生徒や宣教師の看護なども献身的に行ないました。予想を超えて入学希望者が増加し、開校の翌年には、仙台駅近くの一等地である東三番丁に校地を購入し、西洋式の新校舎が建てられました。

「ミス・プールボーは実に男まさりと申すべき女性でありました。其の権威ある様子を忘れる事はできません。リーディングとグラマーを受持たれましたが、教室で一番前の生徒の傍らに椅子を寄せて教えられる様子はちょうど、ナショナルリーダーにある絵のようでありました。先ず席につきながら“ガールズ”と見廻されますと、ブルッと致す程緊張味を感じ、あてられては大変と思いました。下読みがよく出来て居ります時は、あてられ“ウェル”とほめられたと思いました」(卒業生による回顧録)

プールボー書簡の随所に現われる聖書の言葉からも、プールボーの強い信仰が感じられます。子息のヒュー・コートは、異国の中で、まだキリスト教への激しい反発のあった時代、あらゆる事において深い愛を持って伝道に取り組んだ母プールボーを、「透明で勇気のある献身的な真のクリスチャン」と表現しています。



初代校長 Elizabeth R. Poorbaugh (1854~1927年)
1886年アメリカから派遣され、
宮城女学院(現・宮城学院)の初代校長となりました。



創立

宮城学院の始まりは、日本基督一致教会宮城中会とアメリカの合衆国ドイツ改革派教会のジャパン・ミッションとの協力によって、1886年(明治19)9月18日に設立された宮城女学校にあります。

その中心に押川方義(1850~1928年)がいました。押川は横浜バンドの一員で、東北で伝道活動を展開しようとしたときに、合衆国ドイツ改革派教会ジャパン・ミッションとの提携協力を一致教会への加入を決めました。これは、彼に洗礼を授けた恩師J・H・バラの助言と勧めを受け入れたためといわれています。ジャパン・ミッションは、宣教師のグリングによって、1879年(明治12)東京・築地に創設され、日本宣教事業に着手しています。

押川は、東北伝道の本拠地に仙台を定め、1881年(明治14)仙台教会を創設。グリングは、3人目の日本派遣宣教師として来日したホーイと会見し、仙台に女学校を創設する必要性で意見の一致をみます。当時、仙台にはまだ女子中等教育の学校がなく、社会的ニーズが高いこと、キリスト教主義女学校で学んだ女性が東北各地に家庭を築くことが大切であり、「伝道は教育と相まってこそ成果を上げ得る」という共通の思いを抱き、協力関係を築いていくことになりました。女学校設置の重要性は、グリングの夫人ハティと2人目の日本派遣宣教師モールによっても説かれ、本国の外国伝道局を通じ、女性宣教師による全寮学校の設置の構想が、アメリカ全土の合衆国改革派信徒たちに広がっていききました。りました。

建学の精神

宮城学院は、福音主義キリスト教に基づいて学校教育を行ない、神を畏れ敬い、自由かつ謙虚に真理を探究し、隣人愛に立ってすべての人の人格を尊重し、人類の福祉と世界の平和に貢献する女性を育成することを建学の精神としています。

この建学の精神を受けて、「神を畏れ、隣人を愛する」をスクール・モットーとしています。

創造主である唯一の神を仰ぎ、心をこめて畏れ敬うことは、一度限りの人生を有意義に生きるために最も大切なことです。聖書に「主を畏れることは知恵の初め、聖なる方を知ることは分別の初め」(箴言9章10節)とあり、神を畏れる謙虚さのない知識は人間を破滅させる危険を持っていることは、歴史が教えるところでもあります。そこから、神のみを畏れて、他の何も恐れない自由な精神を醸成することを目指しています。



宮城学院 校章・マーク
開かれた聖書とその上に舞う鳩とを宮城野萩の輪が囲むもの。スクールカラーの臙脂色は、合衆国ドイツ改革派教会のカラーでもあります。

学校法人 宮城学院

〒981-8557 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1

TEL : 022-279-1311 FAX : 022-279-4667